

東京工科大学報63



東京工科大学報 63

- 3 学長メッセージ
工学部のコーオプ教育とは！？
- 4 Campus Scene
夕焼けに染まる八王子キャンパス
- 6 学部・学環・研究科便り
応用生物学部
コンピュータサイエンス学部
メディア学部
工学部
デザイン学部
医療保健学部
教養学環
バイオ・情報メディア研究科
- 10 学生・教員の受賞と活動
応用生物学部
コンピュータサイエンス学部
メディア学部
工学部
デザイン学部
医療保健学部
バイオ・情報メディア研究科
- 18 学園祭報告
紅華祭（八王子）・かまた祭（蒲田）
- 20 大学事務局便
平成 27 年度ホームカミングデーが開催されました
サークル活動報告
クロイツェル室内管弦楽団、写真部、赤平
名誉教授懇談会を開催
就職・採用スケジュールが 2 年連続変更へ
OB・OG からの就職活動アドバイス
卒業生による「いろは就職相談会」を開催
- 2.2 TUT Information
人事（採用、任命、退職）
外部研究費（受託研究、共同研究、奨学寄付金、その他）
平成 27 年度学位記授与式日程
平成 28 年度前期学内行事予定
- 2.4 編集後記



表紙

八王子キャンパス、正門に設置されている門扉のディティール。6 枚の門扉は、「マラソン」をモチーフにしたスチール製で、下絵は片柳鴻理事長によるもの。



学長メッセージ

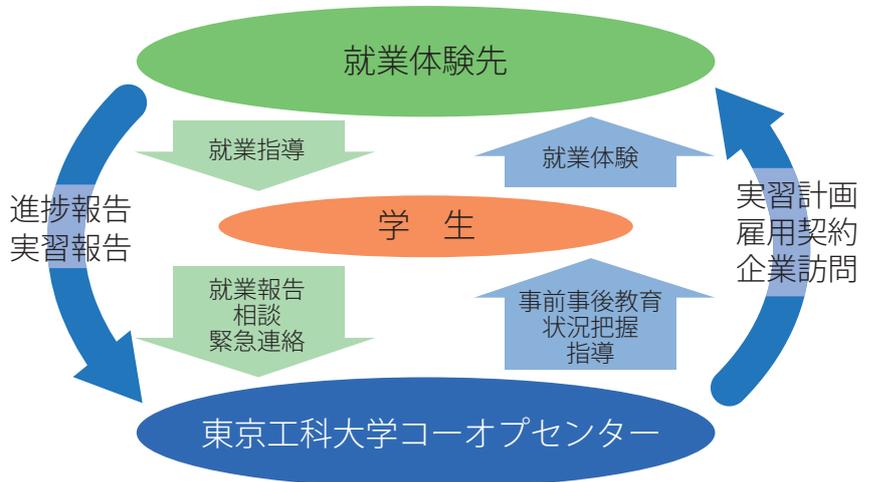
「工学部のコーオプ教育とは!？」

みなさんこんにちは、学長の軽部です。本学は昨年4月八王子キャンパスに工学部を開設しましたが、これについては第60号でお話しました。

この工学部はサステナブル工学を教育・研究する目的で設立された学部ですが、実学を体験する上で重要と考えて、コーオプ教育を取り入れることにしました。今回はこのコーオプ教育について解説したいと思います。

コーオプ教育(Cooperative Education)とは、1906年に米国のシンシナティ大学の工学部で「学内の授業プログラムと学外の企業で就業体験をする学修プログラムを交互に受けるプログラム」として開発されました。これが米国、カナダや欧州に広がり、多くの大学がこのプログラムを取り入れています。わが国の立命館大学や京都産業大学でもこれを取り入れていますが、インターンシップに近い形式となっています。本学は米国等で行われているコーオプ教育に順じて、一定期間(2か月間)企業で働く就業体験と労働賃金、単位を修得し、実践力と総合的な社会人基礎力を身につけるコーオプ教育を行います。

コーオプセンターを設立し、コーオプ教育の管理運営を行います。企業は積極的に教育に関わることで企業ニーズ(求人等)が反映された産学協働実習プログラムを構築できま



す。その証拠に、すでに約100社の企業が本学工学部の学生の受け入れに合意しています。就業経験の前後に体系化された事前・事後教育を実施致します。このプログラムによって、学生は働くことの価値観を醸成し、協働で作業する力や主体的に行動する力を養いますので、学修意欲が向上し、就業意識が高まります。

文部科学省は、競争的な環境の中で国公立大学が切磋琢磨するための革新的・先導的な教育研究プログラムを開発した大学などを補助金

(大学教育再生戦略推進費)により支援しています。平成26年度より「大学教育再生加速プログラム」がスタートしました。平成27年度この事業に本学のコーオプ教育プログラムが採択され、最長5年間の支援が得られることになりました。国内初の本格的コーオプ教育が文部科学省に認められたこととなります。これが新しい工学部の実学教育の中核となると考えています。

「コーオプ教育」推進のための三者協定について

東京工科大学、西武信用金庫、株式会社ナジック・アイ・サポートは、三者が協力してコーオプ実習を推進していくための協定を締結しました。西武信用金庫と株式会社ナジック・アイ・サポートは、共に実習先企業の開拓や実習の運営をサポートしていきます。



八王子キャンパスがある多摩地域には、ものづくりやICTなど成長分野を支える開発型中堅・中小企業等の産業が集積していますが、これまで産学連携による人材育成・供給は十分に行われていませんでした。



今後は、それらの企業でのコーオプ実習をとおして、学生は働くということ、学内で学んだことが社会でどのように活用されているかを知り、企業を知り、業界を知ることができます。

学生にとっては、学修意欲や就労意欲の醸成に繋がり、中堅・中小企業にとっては学生に自社の魅力を伝えることによって、若手人材確保の可能性が広がることとなります。

また、この内容が下記メディアで紹介されました。

- 日本経済新聞 平成27年9月25日
就業体験前後に学生教育 受け入れ企業紹介 連携
- 毎日新聞 平成27年9月23日 地方版
東京工科大学「コーオプ実習」 信金・企業と連携協定

TUT TOPICS

東京工科大学の最新トピックスをお知らせ

大学サイトユーザビリティ調査で公式サイトが高い評価を受ける

本学は、公式WEBサイトをどの端末でも閲覧しやすいサイトにするため、平成26年からレスポンシブデザインへの対応を取り組んできました。

この内容が評価され、平成27年9月に行われた日経BPコンサルティングによる全国大学サイト・ユーザビリティ調査にて、今回初となるスマホサイト調査で3位(146大学)、PCサイト調査で4位(213大学)という高評価をいただきました。

今後、さらなるレスポンシブデザイン対応を進め、閲覧しやすいサイトの制作に努めていきます。

- 日経BPコンサルティング全国大学サイト・ユーザビリティ調査リリース(外部サイト)







Campus Scene

一夕焼けに染まる八王子キャンパス一

八王子キャンパスの正門近くに建つ、本部棟と片柳研究所棟から西方を望むと、富士山を綺麗に望むことができます。

冬の夕暮時には、空一面に広がる夕焼けがキャンパスを真っ赤に染めていきます。

四季の空気の移り変わりを広大なキャンパスで味わうことができるのも、ここ八王子キャンパスの魅力の一つです。

撮影：恵雅堂出版株式会社

BS 応用生物学部

応用生物学部の教育・研究 —化粧品・食品業界への発信と連携—

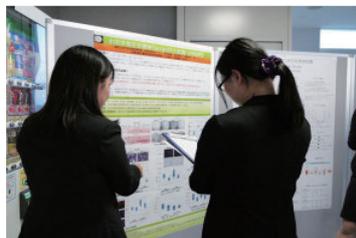
応用生物学部では、平成 27 年 8 月 24 日(月)に「先端化粧品科学シンポジウム—美肌と化粧品—」を、9 月 1 日(火)に「先端食品セミナー —健康機能と食品—」を本学蒲田キャンパスで開催しました。

本シンポジウム・セミナーでは先端化粧品コース・先端食品コースの日ごとの教育・研究成果を化粧品業界・食品業界に発信することを目的としています。

参加者は年々増え続け、先端化粧品科学シンポジウムでは、化粧品業界 108 社から 179 名、先端食品セミナーでは、食品業界 92 社から 117 名の参加があり、本学での教育・研究に多くの企業関係者が興味と期待を持っていることを伺い知ることができました。

また、学生による研究成果のポスター発表もあり、最先端の化粧品・食品技術に関する情報交換を行うことができ、実学教育の成果を企業の方に見ていただきました。

今後も、本学学生の飛躍のために、このような交流の機会を設けていきたいと考えています。



「中学生・高校生向けの実験講座」を開催！

平成 27 年 9 月 13 日(日)に東京都教育庁主催の第 3 回東京ジュニア科学塾専修コースを、本学片柳研究所棟 5 階の学生実験室で開催しました。

このコースは「未来の科学技術を担う人材を輩出する」ことを目的に、都内公立中学校に在籍する 1 年生と 2 年生を対象に行われるものです。

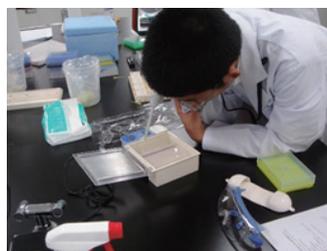
今回は「皮膚における水分の重要性」をテーマに、講義で基礎知識を学び、実験を通じて実際に体験してもらう内容で行いました。岩淵徳郎教授、岩淵研究室に在籍している学生が実験のサポートを行い、参加生徒は 28 名で、ご父母の方々も一緒に実験を体験してもらいました。

午前の部では、岩淵教授から、30 分の講義を受け、午後の部では、各グループで保湿性の高い美容液を実際に作ってみました。こうして化粧品の皮膚効果を全員が体験することができ、今回参加した中学生の中から、将来の化粧品開発者が誕生することを楽しみにしています。

また、平成 27 年 8 月 20 日(木)には都内高校の生徒を対象とした高校生のための応用生物実験講座「DNA 実験」を開催しました。実験では、制限酵素による DNA の切断、リガーゼによる連結反応、アガロース電気泳動での解析という本学応用生物学部の教育の要である「生命科学と工学を融合させたバイオテクノロジー」の基礎的な技術を体験してもらいました。講師は、バイオテクノロジーコースで遺伝子組換え技術を用いた創業研究を行っている佐藤淳教授、実験フォローは佐藤研究室の大学院生が担当しました。

高校生物の授業で勉強している内容を、教科書の中でだけでなく、実際に目で見て、手を動かしてやってみることで、勉強した内容の理解や実験の楽しさを学んでもらえたと思います。

応用生物学部では、高校生を対象とした実験講座を随時実施しております。ご興味のある方はぜひご相談下さい。



CS コンピュータサイエンス学部

「医療 IoT プロジェクト」の立ち上げに向けて

コンピュータサイエンス学部では、プログラミング教育等を通じて論理的思考能力や創造性など、未来を生き抜く力の育成に力を注いでいます。アクティブラーニング、JMOC (教育用動画配信サイト) を利用した反転授業、ものづくりを介して実践的に知識やスキルを身につけるプロジェクト演習などは、その目的達成のために創意工夫されたものです。

この学びの支援により一定の効果が得られていますが、学生たちにもっと社会に貢献できる有能な人材に育ってもらうために、平成 28 年度から医療 IoT(Internet of Things) のプロジェクトを立ち上げることにしました。IoT とはモノのインターネットと言われているもので、コンピュータサイエンスの分野で今最もホットなこの技術を医療分野に応用しようとするものです。「医療=治療」という狭い意味ではなく、予防、リハビリテーション、介護などとともに、育児やヘルスケア (健康科学) をも見据えた教育・研究プロジェクトです。IoT の研究は、コンピュータサイエンス学部設立当初からユビキタスコンピューティングの名の下、多くの教員学生が実質的に教育・研究をしてきました。また、認知リハビリテーション用ゲームの研究・開発、一人暮らしのお年寄りのための見守り電源コンセントの研究・開発、障がい者のための様々な支援補助

装置の研究・開発などにも積極的に取り組んできました。今の学生たちは、目前に迫っている超高齢社会の中心的存在として活躍することが求められています。そのような点にも配慮して、医療 IoT を他大学に先駆けて本格始動することにしました。

保護者の方々におかれましては、以上のことを理解していただくとともに、お子様にこのような新しい分野を学ぶことの意義を論じていただければ幸いです。将来ある若い学生たちのために教職員一丸となって全力で邁進中です。



医療 IoT 紹介動画、東京工科大学公式ホームページより



「先端メディア学」と「先端メディアゼミナール」

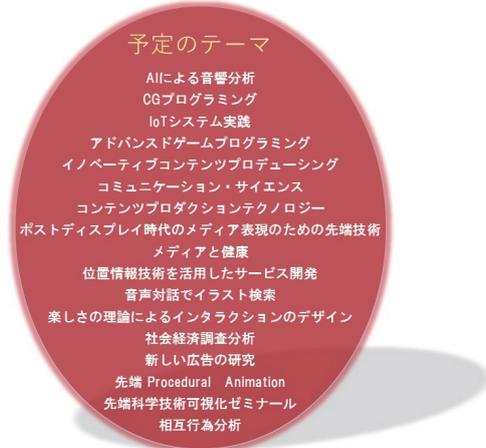
メディア学部はメディア学の元祖ですが、元祖であるという事実に胡坐をかかなく、そうであるための自覚も大事にしています。私達は常にメディア学のトップランナーであり続ける立場にあるのだという自覚です。そのために、これまでも時代に応じた適切な改革を実行してきました。直近の改革実行の事例のひとつとして、前号では新カリキュラムが順調にスタートしたことを報告しました。

先頭を走り続けるためには、問題点やニーズを迅速に把握し、適切な修正を続ける必要があります。それだけでも容易なことではありませんが、元祖だからこそ社会動向を冷静に俯瞰しながら、大学という場に相応しい冒険的試みを計画・実行し、その結果に責任を持つことも元祖の責務であると私達は考えています。

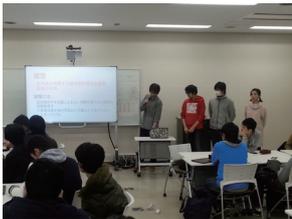
このことを踏まえ、平成 28 年度からは先端科目の開講を予定しています。研究心が強く、GPA も高い優秀な学生を対象にした「先端メディア学」と「先端メディアゼミナール」という授業科目の開講です。これらの授業科目の受講を希望して選抜された学生は、1 年次からテーマ別に少人数のゼミ形式による授業を履修することができます。これらを受講することで学部生でも堂々とした学会発表が可能になることを想定しています。さらに、受講した学生は、結果的に入学後 5 年間で修士号を取得することも可能になります。

メディア学部では、メディア学への期待に胸を膨らませて入学してくる優秀な新入生には、入学後の初期段階から研究という冒険への入り口も準備してあ

げたいのです。元祖としての自覚、そして元祖に期待して入学してくる若者達の思い、双方の融合にてメディア学研究のさらなる活性化を推進させたい所存です。



平成 28 年度からのコーオプ実習に向けて事前教育が本格スタート



工学部では学生が 2 年次後期（機械工学科）から 3 年次前期（電気電子工学科及び応用化学科）にかけて企業等での約 2 か月間のコーオプ実習（必修：8 単位）を行います。

コーオプ実習は、通常のインターンシップと異なり、実習期間が 2 か月という長期間であり、また実習生には給与が支給されます。また、実習プログラムも企業に任せるのではなく、大学と受入企業との間で事前の打合せにより効果的な内容を決定します。

先行する北米では年間 30 万人程度の学生がコーオプ実習を経て就職していますが、このようにカリキュラムに組み込まれたコーオプ教育は、日本では本格的に実施されていませんでした。

工学部では、1 年次からコーオプ教育科目が組まれており、平成 28 年度からコーオプ実習が始まります。実習に必要なスキルを習得するための事前教育科目として、平成 27 年度後期よりグループワークを中心としたコーオプ演習Ⅰが開講されています。企業の就業実習で活躍するためには、まわりの人

とコミュニケーションを取り、協調してチームで成果を出すことが求められますので、これらの基本的なスキル・能力を向上させることを目的として、グループワークの方法、調査・発表の方法を学んだ後にグループで問題解決提案をおこなうという演習が行われています。

今年度は、社会人の教養として必要な時事問題と、技術者として要求される専門技術分野でのトピックスという 2 つのテーマに取り組んでいます。各グループでテーマを決定し、5 回程度の調査・議論を経て、取り上げたテーマの課題解決策を発表します。

12 月上旬にかけて、時事問題テーマの発表会が行われ、熱心な質疑応答が繰り返されました。このコーオプ演習Ⅰでの優秀な成果・発表に対しては学部長賞が授与されます。コーオプ実習を挟み、コーオプ演習Ⅰ、コーオプ演習Ⅱ、コーオプ企業論、コーオプ演習Ⅲという一連のコーオプ教育科目で、学生の実践力を育成しています。



第 2 回サステイナブル工学研究会を開催

工学部では、平成 28 年 4 月より 2 年生を対象に、サステイナブル社会（持続可能な社会）の実現に貢献する「サステイナブル工学」シリーズが開講されます。このシリーズでは、学生は 2 年次前期に「サステイナブル工学基礎」を受講し、引き続き「サステイナブル工学実習」で評価分析ツールとなる LCA（ライフサイクルアセスメント）について実習します。

3 年次後期の「サステイナブルプロジェクト演習」では、3 学科合同で少人数チームに分かれ、身近な製品のサステイナビリティ（持続可能性）評価と改善策を検討し、実践的なサステイナブル工学を体得するように構成されています。

サステイナブル工学開講に向けた活動として、12 月 2 日、第 28 代東京大学総長で三菱総合研究所理事長の小宮山宏先生をお招きし、研究会を開催しました。講演のタイトルは「ブラチナ社会に向けたイノベーション」で、工学部の 1 年生と教員が聴講しました。「ブラチナ社会」とはサステイナブル社会の具現化された一つの姿であり、「地球環境問題を解決した元気な超高齢社会」として小宮山先生が提唱されている社会モデルです。

（参考 <http://platinum-network.jp/>）

講演では、地球温暖化や資源の現状の説明の後、ブラチナ社会に向けた具体的な提案が示されました。また、日本は、公害やオイルショック等の課題を解決してきた環境先進国であり、世界に模範を示すべきであると提言され、その

ためには、若き技術者が力を合わせて新たな潮流を生み出し、科学や技術を結集してイノベーションを起こす必要があると、情熱的に、かつ理路整然と語りかけられました。分かりやすいデータと小宮山先生の情熱に、学生はじめ教員も皆熱心に聞き入っていました。

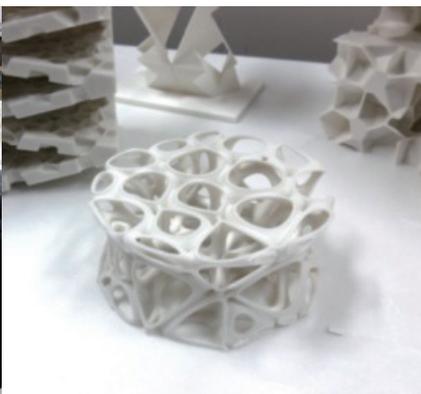
本研究会から得た知見を、開講中の「コーオプ演習Ⅰ」のグループワークや、今後の教育・研究に積極的に活かしていきます。



「工業デザイン研究プロジェクト」がはじまる



3D プリンタ (3D Systems 社製 ProJet® 460Plus) によるモデル製作



3D プリンタで作製したポロノイ構造検討モデル



3D CAD による応用展開シミュレーション (大型道具の検討)

片柳研究所が支援する本学「共同プロジェクト」において、デザイン学部では「工業デザイン」コースの教員による「3D プリンタを活用したデザイン研究開発プロジェクト」をスタートさせました。

近い将来、工業製品の生産手段の一つとして普及することが予想される3Dプリンタについて、その本質である「デジタルデータから直接造形物を作り出す」という特徴を活かし、新たな構造体や製品デザインの発展性・実現性を探りながら、新たなデザイン手法の構築を目指すプロジェクトです。考案したデ

ザイン手法の検証においては、3Dプリンタだけでなく、その他の最新デジタル製造関連の装置を活用して、実践的なデザインモデル開発を行い、新たなモノづくりの開発プラットフォーム（デジタルデザインラボ）に関する活用ノウハウを取得する計画です。

加えて、この研究過程や成果活用において、地域産業（大田区のモノづくり関連企業）との連携や外部デザイン機関との情報交流等を図りながら、本大学における産学官連携を推進していきます。

「生きる力」を支える高い実践力育成を目指して

看護学科は、2010（平成22）年蒲田キャンパスに開設された医療保健学部の中で、臨床工学科、理学療法学科、作業療法学科とともに1学年80名の定員でスタートしました。新たに臨床検査学科が開設された2014年は、看護学科にとって大きな変化の年でした。定員を120名に増員、12号館から3号館の17、18階への移転、開設時のものをより充実させた新カリキュラムへの移行が行われました。現在は定員増とカリキュラム改正の学年進行中ですが、4学年が揃うと学生定員で480名の学部で最大規模を誇る学科です。

看護学は、実践の科学といわれています。人が生まれ、その生涯を終えるまでのあらゆる時期の健康現象において、個人・家族・地域社会に関与することによって、個人の生命力や生活力を十分に発揮できるように援助することを意図した働きです。看護師という病院で働く姿をイメージされる方も多いと思いますが、人々のあらゆる健康レベル、あらゆる発達段階がその対象であり、活躍の場は多岐にわたります。4年間の学士教育の中で、どのような力を育むのかは大きな課題です。文部科学省では、2003（平成15）・2011（平成23）年に、学士教育でコアとなる「卒業時到達目標とした『看護実践能力』の構成と卒業時到達度」を示しています。学士課程で育成すべき「看護実践能力」とは何か、東京工科大学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーも踏まえ、人々の「生きる力」を支える看護を目指し、コアとなる「人間性」「看護実践力」などの項目ごとに各学年での到達度のマトリックスを作成し、教員間で共有し日々の教授活動に反映させています。

今回は、その実践力育成に大きく寄与する臨地実習についてご紹介します。看護学科では、1～4年次までその学習進度に応じた実習が計画されています。各実習にはそれぞれ先行要件が定められ、関連科目の単位取得はむしろ実技試験にも合格してはじめて取り組むことが許されます。1年次は、入学間もない5月の基礎看護学実習Ⅰ。コミュニケーションや健康障害を抱えた方の環境について学びます。2年次2月の基礎看護学実習Ⅱでは、病院で2週間1人の患者さんを受け持たせて頂きます。看護過程という問題解決思考に基づいた方法で、その方に必要な看護を導き実践していきます。多くの学生にとって、この通称「基礎Ⅱ」実習が看護学生としての覚悟やモチベーションに繋がっているようです。3年次後期には、4か月連続の各論実習があります。母性、小児、成人、高齢者、精神の5領域で、様々な発達段階、健康問題を抱えた方々の看護を学びます。病院だけではなく、施設や保育園など週単位で行き先が変わることもあります。基礎知識はもちろん、体力や精神力、時間の使い方などのマネージメント力も試されます。ここで育まれる仲間との信頼が、生涯続くいくことは言うまでもありません。4年次前期は、在宅、公衆衛生（地域）看護学の実習です。療養されている方の居宅、保健所・保健センター・地域包括支

援センター、本学の特徴でもある企業での実習も全学生が体験しています。保健師の資格を取得する選抜20名の学生は、さらに密度の濃い公衆衛生分野での実習が続きます。そして、最後の仕上げは7月に行われる統合実習。学生が希望の領域を選択し、自らの学修テーマを設定し3週間の実習に取り組みます。卒業後の進路やライフワークにもつながる、重要な実習です。

これらの実習に欠かせないのが、実習先と大学との信頼関係です。本学には、大学病院や附属病院はありませんが、開学以来関東労災病院、東京労災病院をはじめ多くの病院、施設、企業、自治体にご協力を頂いて来ています。研修会や研究での連携、卒業生の就職、将来的には大学院での派遣研修なども視野に入れ、より強固な関係を構築していきたいと考えています。看護学科の教員が中心に運営している産業保健実践研究センターでは、既に大田区や企業・事業所との連携による研究、研修、研究会等での実績を上げており、学生への教育的還元も行われています。

看護師、保健師、国家試験合格率100%。2015年春、開学から2回目の卒業生がこの快挙を成し遂げてくれました。国家試験は、大学教育のゴールではありませんが、専門職として生きていく学生が必ず通過すべき最初のハードルです。受験生全員の合格は難易度が高く、新設校の100%合格は困難であるといわれる中での成果でした。これは、先に述べた臨地実習をはじめとしたカリキュラム、教育活動全体へのひとつの評価だったと考えています。変化し続ける時代に柔軟に対応していける、「生きる力」を支える看護を目指して、学生・教員が一体となって今後も取り組んでいきます。蒲田キャンパスにいらしたら、3号館の17、18階実習室を覗いてみてください。今日も学生達が、技術や知識の習得に取り組む姿に出会えるかもしれません。



まちの保健室にて (かまた祭)

「サービラーニング実習」の多様な現場

サービラーニング実習は、教養学環が担う人間形成教育の核の1つとして、学生にぜひ履修してほしい科目*です。この科目は、奉仕活動を通して現実の社会・文化・自然を総合的に学修することを目的としています。その活動を通して、奉仕活動に必要な知識の学修はもちろん、社会の現場を深く理解し、問題を発見し、解決・改善のために発想・協働しあう実践力を養います。フィールドワークをベースにしたPBL(Problem-Based Learning)ともいえます。

現在、この科目では、宿泊を伴う現場として、トキの繁殖に係わる活動支援（新潟県佐渡市）、有機農業を活かした食育・農業の支援（長野県上田市）、過疎化した農村での農地整備の支援（新潟県南魚沼市）、IT サテライト構想や田んぼ再生の支援（群馬県東吾妻町）などを、また宿泊を伴わない現場として、八王子市を中心とした各種イベントの支援、老人福祉施設での老人の話し相手、小学生を対象にした理科実験の支援、学内での聴覚障がい学生へのノートテイクなどを用意しています。

この科目は多様な現場の開拓と信頼関係の醸成が必須です。そのため学環

教員一丸となって、日々、新たな現場開拓とネットワーク形成、学修内容の充実化に努めています。

*（応用生物学部、コンピュータサイエンス学部、メディア学部、工学部の開講科目）



飼育されているトキ



休耕田を再生してトキの餌場づくり



上田食育プログラムのイベントに参加

平成 27 年度海外語学研修報告



教養学環では、平成 27 年度より『海外語学研修』を実施しています。第 1 回目の今年（27 年度）は、8 月末～9 月初めにかけての 2 週間、英国南部 Brighton において語学研修を実施しました。プログラムに参加したのは、八王子・蒲田両キャンパスより、学生 30 名と教職員 2 名。米国ロサンゼルスで実施されている『海外研修』とは異なり、現地の家庭にホームステイしながら、語学学校 Regent Brighton で、様々な国籍の学生たちとともに英語を学びました。初日にプレースメントテストを受け、自分のレベルにあったクラスに分け



られると、朝 9 時～午後 3 時 45 分まで様々な授業に参加します。初めはイギリス式の授業に戸惑っていた学生たちも、すぐになじみ、緊張感を持ちながらも、英語漬けの生活を楽しんだようです。放課後には、語学学校のスタッフとともに、近隣の名所を訪れたり、ダウンタウンのレストランに出かけたりしました。研修終了時は、ほとんどの学生がもっと滞在したい、もっと英語を話したいという感想を残すほど、充実した研修となりました。

GD 大学院バイオ・情報メディア研究科

オンリーワンの学びを目指して：フロンティア領域の先導的開拓



バイオ・情報メディア研究科では、大学院の教育・研究をイノベーションする改革を進めています。特に、近年本研究科でしか学べない（研究できない）新規なフロンティア領域創出を重点的に取り組んでいます。

今回は、メディアサイエンス専攻の取り組みを紹介します。

メディア学部・メディアサイエンス専攻では、2000 年初頭に本邦初（世界初）のメディアの名称がついた学部として産声をあげました。そのビジョンや先見性は特筆されるもので、お陰様で元祖メディア学部として広く認知されてきました。

ただ、近年の情報メディア環境は、劇的な変化を遂げており、仕事、ビジネス、コミュニケーション、市民生活も当時と比べて大きく変容をしてくれています。メディアといえば、マスメディア（放送、新聞、雑誌、ラジオ）が思い浮かぶますが、マスメディア離れは、あらゆる局面で加速度的に進行してきています。代わって驚異的に台頭してきたのが、インターネットメディアとモバイルメディアです。

そうした環境変化を改めて先取りする意味で、メディアサイエンス専攻には、来年度から、広告イノベーションの教育研究カリキュラムを明示的に用意する予定です。広告イノベーションは、まさに他大学院では学べないオンリーワンでフロンティアな領域です。

何故、広告イノベーションかと言いますと、大きく二つの理由が挙げられま

す。①フロンティア融合領域：メディアサイエンス専攻が標榜してきた融合領域であること。つまり、創造的表現、アドテク（広告工学）、マーケティングがまさに文理芸融合した新領域であること、②オンリーワン性と人材ニーズ：他大学院・大学でインターネットやモバイル技術に立脚した広告（メディア、サービス）を公式な学部・専攻名（コース名）として採用しているところがないこと。そしてこの分野は成長性も高く新しい知識も備えた実践型人材のニーズが高いこと。

新コースに先立ち、広告イノベーションに関わる内外への発信や交流をすべく、12月12日に、メディア学部・メディアサイエンス専攻主催のアイデアソン「越境して『広告』の未来を探そう」を開催しました。準備期間が短い中で、多様な分野から多彩な人材が、それぞれ越境して『広告』の未来についてチャレンジをしました。IT 関連のメディアも取材に来ていただき、この分野への潜在的な関心の深さと可能性を改めて実感しました。

越境して未来の広告を考える
インタラクティブ広告プロジェクト

Trans-Disciplinary:
多様な専門分野を横断した研究プロジェクト

様々な分野の学生・教員・企業人が協力！
研究室の枠を超えつながる研究ができます。



50名以上が参加！キックオフイベント
未来の広告を考えるアイデアソン開催
12月12日(土) 15:00 - 新宿区・工科大学11F



学生・教員の 受賞と活動

School of Bioscience and Biotechnology

応用生物学部

生命医薬情報学連合大会 2015 年 大会でポスター賞を受賞



平成27年10月29日(木)～31日(土)に京都大学宇治キャンパスおうばくプラザにて開催された生命医薬情報学連合大会 2015 年大会で、村上勝彦准教授がポスター賞を受賞しました。

今回のポスター発表では、遺伝子データベースの中から専門用語の集合と遺伝子集合から関係あるものを自動的に探しだし、隠れていた知識(複合概念)を提示する手法を提案しました。統計学などを使ってデータから知識を取り出す「データマイニング」といわれる分野の研究です。

タイトルは、Identification of latent factors in gene databases using non-negative matrix factorization です。

なお、本研究は JSPS 科研費(基盤研究 C 研究課題番号: 26330342)の助成を受けたものです。

中学生のための東京ジュニア科学 塾専修コースを開催

平成27年9月13日に東京都教育庁主催の第3回東京ジュニア科学塾専修コースを本学で開催しました。

このコースは、未来の科学技術を担う人材を輩出することを目的に、都内公立中学校に在籍する1年生と2年生を対象に行われました。

今回は、「皮膚における水分の重要性」をテーマに、講義で基礎知識を学び、実験を通じて実際に体験してもらうという内容で行いました。岩淵徳郎教授、岩淵研究室に在籍している学生が実験のサポートを行いました。参加者は28名で、保護者の方々も一緒に実験を体験してもらいました。

午前の部では、岩淵教授から、30分程の講義を受け、午後の部では各グループで保湿性の高い美容液を実際に作ってみました。

こうして化粧品の実験効果を全員が体験することができました。今回参加した中学生の中から、将来の化粧品開発者が誕生することに期待しています。



化粧品サークル LCC が学生主体で 石けんをマーケティング開発

化粧品研究サークル LCC (Love Cosmetic Company) は、平成24年の秋に応用生物学部を中心に設立されたサークルです。サークル内マーケティング部門では、平成25年より本格的に石けん販売に向け、市場調査や OEM (受託製造) 企業の調査、成分についての勉強をしてきました。

学生主体で、石けんのコンセプト、成分、色や香りを決め、大学が八王子にあることを生かし、八王子にゆかりのある、「イチヨウ」、「桑」の保湿成分を配合した石けんを作ることにし、それを OEM 企業に作ってもらい、何種類かの試作品で色や香りのアンケートをとり、それを基に最終的な石けんを完成させました。

昨年の紅華祭(学園祭)で初めて販売し、今年の紅華祭でも石けんを販売しました。

このように、学生が主体となって化粧品の企画から販売の流れを学べるのは、この化粧品研究サークル LCC の特徴です。今後の活動にもぜひご期待ください。



先端化粧品科学シンポジウムー美 肌と化粧品ーを開催

平成27年8月24日に本学蒲田キャンパス3号館で、「先端化粧品科学シンポジウムー美肌と化粧品ー」を開催しました。

このシンポジウムは応用生物学部先端化粧品コースの日ごろの活動成果を化粧品業界に還元するとともに、最新化粧品技術に関する情報交換を目的として毎年開催しており、今年で5回目を迎えました。参加者は年々増え続け、今回は化粧品業界から100社以上200名近い方々の参加がありました。

第一部では、元資生堂執行役員で肌箋舎代表の池田敏秀氏、花王株式会社メイクアップ研究所主任研究員の中西啓輔氏らにご講演いただいたのち、柴田雅史教授、前田憲寿教授が講演を行いました。

第二部として、本学学生による研究成果のポスター発表と懇親会を行いました。

年々、化粧品業界における先端化粧品コースの認知度も上昇してきていることが感じられるシンポジウムとなりました。



高校生のための応用生物実験講座 高を開催

平成27年8月に都立高校の学生を対象とした、高校生のための応用生物実験講座「DNA 実験」を開催しました。

実験は、DNA の制限酵素による消化、リガーゼによる連結反応、アガロース電気泳動での解析という内容で行いました。講師は、バイオテクノロジーコースで遺伝子組換え技術を用いた創薬研究を行っている佐藤淳教授、実験フォローは佐藤研究室の大学院生が担当しました。

生物の授業で勉強している内容を、教科書の中だけでなく、実際に目で見て、手でやってみることで、

勉強した内容の理解や実験の楽しさを学んでもらえたと思います。

応用生物学部では、高校生を対象とした実験講座を随時実施しております。ご興味のある方はぜひご相談ください。



応用生物学部教員による最近の 出張講義を紹介!

応用生物学部では、教員による出張講義(出前授業・模擬授業)を実施しています。ご希望に沿った分野・テーマの講義を行います。学校行事の進路指導の一環ではなくても、化学や生物、総合的な学修の1回として1クラスだけで授業をすることも可能です。

また、出張講義にかかる費用はすべて本学で負担します。出張講義を希望される方は、お気軽にお問い合わせください!

■出張講義の問合せ先 (他学部・他学科への依頼もお待ちしております)
東京工科大学 広報課 MAIL: pr@stf.teu.ac.jp TEL: 0120-444-903

■出張講義事例

- ・今村亨教授 東京都私立高校
「遺伝子と毛髪」
- ・多田雄一教授 千葉県市立高等学校
「未来をつくるバイオテクノロジー 植物バイオを中心に」
- ・吉田亘助教 東京都私立高校
「ヒトゲノムとバイオテクノロジー」
- ・浦瀬太郎教授 東京都立高校
「環境中の化学物質の安全性を評価する技術」

Web Shark Interactive Award 2015にて優秀賞を受賞



スマートフォンアプリの企画コンテストである Web Shark Interactive Award 2015 (WSIA 2015) で本学コンピュータサイエンス学部 3 年原口和輝

さんが優秀賞を受賞しました。

このコンテストは、「こんなものがあつたらいいのになあ。」を募集するスマートフォンアプリの企画をするものです。

受賞企画名は、「Heart G - 大事な人の命を守るアプリ」。アイデアのきっかけは父が心臓病になった事から、心臓について興味を持ち、調べていく過程で日本の心疾患の死亡率の高さを知り、スマートフォンを利用して、心疾患を予防することで心臓に持病を抱える人々が安心して暮らせるようになるのではないかと考え、アイデアを思いつきました、と説明する原口さん。

機能としてはセンサーから定期的に心拍数を測定し、Bluetooth (BLE Serial) 等による相互通信を利用してスマートフォンに送り、アプリにてデータを活用して、統計などの機能を提供しています。



学会誌に「マイナンバーと電子署名・電子認証」を執筆

情報処理学会の学会誌 11 月号「情報処理 Vol.56, No.11」の小特集「暗号と社会の素敵な出会い」に、手塚悟教授が執筆した「マイナンバーと電子署名・電子認証」が掲載されました。



IT インフラ Summit 2015 夏で特別講演

7 月 28 日に日経 BP イノベーション ICT 研究所主催の IT インフラの企画・設計・導入・運用に携わる方を対象としたセミナー形式の大規模イベント「IT インフラ Summit 2015 夏」で田胡和哉教授が特別講演を行いました。講演内容は、「Docker による学内システム構築で見てきたこと〜8000 人の学生が使うサーバー基盤とは〜」です。



ソフトウェア開発を学ぶ学生一人一人に対して、Web ベースの開発環境を組み込んだサーバーを即座に提供できるようになり、8000 人の学生を対象に運用を開始。基盤開発や運用を通じて分かった、Docker によるシステム構築の利点や課題を解説しました。

IoT がもたらすスマートライフ開催報告

10 月 12 日にワークショップ「IoT がもたらすスマートライフ」を本学八王子キャンパスで開催しました。Design for All のメンバーから約 25 名、本学からは亀田弘之学部長・教授、田胡和哉教授、澤谷由里子教授が参加しました。

このワークショップでは、IoT (Internet of Things) : コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体 (モノ) に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより自動認識や自動制御、遠隔計測などを行う (こと) が人々の暮らしをどのように変えるのかに焦点を置き、実施しました。

今回のイベントでは、八王子キャンパスに併設されている、姉妹校の日本工学院八王子専門学校のスマートハウスの見学会も行われました。



北京理工大学との学術交流活動報告

9 月 23 日から 27 日に、北京理工大学の自動化学院で余錦華教授が、学術交流活動を行いました。



北京理工大学は、中国北京市の大学町として知られている中関村に位置し、理工系を中心に、ビジネスや文学も持つ中国重点大学で、現在、在学学部生が 2 万 8 千人余り、修士課程在学学生が約 8 千人、博士課程在学学生が 3 千人余りで、2015 年中国大学ランキングによると、中国 2246 校の高等教育機関において、29 位にランクインしている大学です。

今回の交流では、幅広く研究交流ができ、今後の共同研究などについても話し合うことができ、とても有意義なものになりました。

平成 26 年 3 月に両学の国際交流協定を更新し、今回の交流は更新後最初のものでした。



サービスサイエンス研究の本が出版される



澤谷由里子教授らが編集した「Global Perspectives on Service Science: Japan (Springer)」が出版されました。

サービスサイエンスは平成 26 年度以降、産学官の連携で推進されており、本書は Service Science Research and Innovations (SSRI) シリーズで、日本の第一線の研究者によるサービスサイエンス研究を紹介しているものです。

JMOOC 講座を活用した反転授業が日本経済新聞で紹介される

本学では国内大学初の試みとして、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会の大規模公開オンライン講座 (JMOOC) を教材として取り入れた反転授業を平成 26 年度から実施しています。

JMOOC とは、若者からシニアまで学ぶ意欲のある人が誰でも無料で有名教授などの講義を受講できる公開オンライン講座 MOOC (ムーク) の日本版として平成 26 年 2 月にサービスが開始され、すでに 7 万人以上の受講者を集めています。

この本学の反転授業の内容が平成 27 年 10 月 28 日の日本経済新聞朝刊 28 面に「予習の習慣 大学にも」の記事のなかで紹介されました。

この授業は、コンピュータサイエンス学部 2 年次後期の「インターネット」科目の中で行われ、インターネット研究の国内第一人者である村井純慶應義塾大学教授の JMOOC 講座 (講座名: インターネット) を教材として使用します。学生たちは、JMOOC 後任の大規模公開オンライン講座提

供サイト「gacco (ガッコ)」を利用して自分のペースで事前学習 (予習) を行い、教室ではディスカッション等の主体的かつ発展的な授業によって学修効果を高める「反転授業」と呼ばれる、いま注目の学びのスタイルを実践します。

このような優れた教材を本学が積極的に推進する「アクティブラーニング」に採用することで、学生たちの主体的な学修に良い効果をもたらすことが強く期待されます。今回の取り組みを通して得られた実績に基づき、他の科目への積極的な発展・応用を検討するとともに、今後の教育界の発展的な在り方を模索する上でも意義のある試みと考えています。

掲載された記事では、実際の講義の内容が写真付きで紹介され、担当の岩下志乃准教授のコメントが掲載されました。



メディア学部

一般社団法人画像電子学会がフェロー称号を授与

平成27年6月28日に行われた一般社団法人画像電子学会総会において、近藤邦雄教授は、画像電子学会フェローの称号を授与されました。



このフェロー称号は、画像電子分野において、会員の学問・技術面における先駆的な業績による学界・産業界への貢献、教育・技術指導をととして社会で活躍する人材を輩出することによる貢献、学会事業へのより積極的な寄与による貢献をした特に顕著な貢献・功績があると認められた会員に授与されるものです。



近藤邦雄教授が第14回 CG Japan Awardを受賞



芸術科学会主催の第14回 CG Japan Awardを近藤邦雄教授が受賞しました。この賞は、2002年に第1回表彰が行われ、CGの分野において世界的に活躍された日本人を対象にして、毎年1〜2名の業績を称えるもので、近藤教授は18人目の受賞者となりました。メディア学部では、金子満先生が2007年に受賞しており、本学では二人目の受賞です。



第14回 CG Japan Award受賞理由「初期の頃からのコンピュータグラフィックス分野における非写実的表現 (Non Photorealistic Rendering) をはじめ、インタラクティブモデリング、アニメーション、感性情報処理、コンテンツ制作支援など多くの先進的なCG研究で活躍され、後進の研究活動の指針となってきた。また長年にわたりCGの分野において多くの研究者を育成され、直接的にも間接的にも多数の人材に成長と活躍の場を提供されてきた。」

新ゲームジャンルの学生向けコンペティションで入賞!

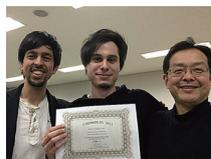
古武道とテクノロジーを組み合わせさせた新ジャンル「e-コンバット」で学生向けのコンペティション(主催:株式会社響尤 KYOUYU)が開催されました。

「e-コンバット」とは、数百年進化していない武道具の不完全さをコンピュータ通信システムによって補うべく開発された、「雷鳴システム」という拡張システムをプラットフォームとした新しいゲームジャンルです。この学生向け企画コンペティション「世界初!! 古武道 x テクノロジー『e-コンバット』コンペティション」で、遠隔兵法:ゴーストプラスの部(電脳射撃訓練用具)において、メディア学部3年生の池上友貴さん、2年の長井智弘さんが入賞、板垣伴信賞(努力賞)に2年の脇坂明日香さんが入賞しました。

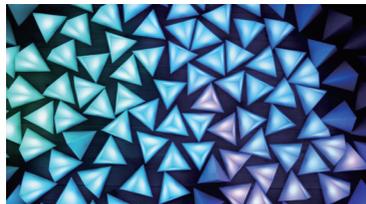


国際学会「CYBERWORLDS 2015」でベストペーパー賞を受賞

平成27年10月7日から9日にスウェーデンのウプサラ大学ゴットランド校で開催された国際学会「サイバーワールズ 2015 (CYBERWORLDS 2015)」にて、大学院メディアサイエンス専攻博士前期課程2年生アルカティブ・アブドゥラさん(担当教員:佐々木和郎教授)がART and DESIGN部門で、「ベストペーパー賞(優秀論文賞)」を受賞しました。



サイバー・ワールズ(CYBERWORLDS)とは、インターネットやコンピュータを使った様々なメディア表現や、ネットワークとバーチャルワールドにおける表現を主要テーマとした国際学会です。バーチャルリアリティを利用したアプリケーションから、ゲームデザインまで幅広いトピックを扱っています。



研究発表した Arduino を用いたインスタレーション・アート作品

福島 GameJam2015 に東京工科大学サテライトとして参加

平成27年8月22日(土)から23日(日)の二日間、NPO法人IGDA日本主催の「東北ITコンセプト 福島 GameJam2015」が開催されました。

福島県郡山市をメイン会場とし、国内12会場および海外6会場(台湾、スイス、アメリカ、チリ)を結んで、参加者総数500名以上の大規模なイベントです。

本学八王子キャンパスも「東京工科大学サテライト会場」として、40名程の社会人・学生が参加し、プロアマ混合即席チームを組み、30時間という制限時間内でのゲーム制作にチャレンジしました。

本イベントは、被災地支援の一環として、若手人材の育成・雇用の創出を大きな目標として、5年間にわたり開催されています。

今話題のVR(バーチャルリアリティ)コンテンツの制作に取り組む「福島 GameJam VR Challenge(FGJ-VR)」も併設しました。三上浩司准教授、岸本好弘准教授らが中心となって運営に携わり、本学学生も2年生から4年生まで16名の学生が参加し、30時間の制作を終えた後は、メイン会場と繋いでの発表会が行われ、各チームの力がこもった個性的な作品が多数発表されました。



第5回夏休み子どもいちょう塾で講座開催!

岸本好弘准教授とメディア学部の学生らが大学コンソーシアム八王子主催の「夏休み子どもいちょう塾」において学習ゲームの特別授業を行いました。これは八王子地域の大学・高専の先生たちが、各大学の特色を活かして八王子市内在住の小学4〜6年生を対象に開講する夏休みの特別講座です。



岸本研究室では、学生の制作したゲームを使い、毎年異なるテーマの「学習ゲームを使った講義」を行ってきました。3年目の今年のテーマは「ゲームで学ぼうインターネットの安全な使い方!」。多くの小学生と保護者の方々に、「ゲームを使った学び」を体験していただきました。

CG界のノーベル賞といわれる Steven A Coons 賞の受賞者 James D. Foley 先生の講演会開催

平成27年10月1日に、CG界のノーベル賞といわれる Steven A Coons 賞受賞者の James D. Foley 先生の講演会を本学にて開催しました。

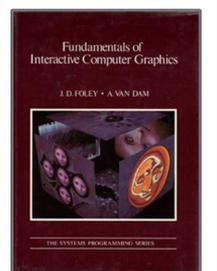
James D. Foley 先生は、平成27年9月28日に JST CREST-PRESTO Symposium 2015"22世紀創造のための数学"において講演されました。この機会に本学での講演をお願いしたところ、10月1日に講演の機会を得ることができました。Steven A Coons 賞の受賞者である本学客員教授西田友是先生、Pat Hanrahan 先生に続き、James D. Foley 先生が3人目の受賞者講演です。

■講演題目

A Computer Graphics Grand Challenge: How Real is Real Enough?

■講演者

James D. Foley 教授
College of Computing, Georgia Institute of Technology



東京ゲームショウ 2015 に出展

メディア学部では、他大学に先駆けてゲーム制作の総合的な教育に取り組んでいます。今年も、その成果の一部として、作品と研究デモを世界最大級のゲームイベント「東京ゲームショウ 2015」に出展しました。作品展示では、プロジェクト演習の成果物として、3年生が開発したゲームを展示。研究展示では「メディアコンテンツコース・メディア技術コース」の研究内容を幅広く展示しました。

ゲーム体験や表現の高度化のための技術や、将来のゲームのための技術まで、様々なイノベーションを体験することができ、例えば、よりアニメ的なゲーム表現を実現するための先端技術研究、プレイヤーの生体情報を分析してゲームデザインに活用する研究、ヘッドマウントディスプレイを利用したゲームにおける視認性の研究、高度なグラフィック表現のための研究、ゲームの誘因性を他の分野に生かすゲーミフィケーション研究などです。

メディア学部では充実した ICT 教育をスタートさせ、講義と演習を効果的に組み合わせた特色のある教育を実施しています。

ゲーム制作についても、必要な基礎技術を習得する演習や、知識を総合的に蓄積する講義、さらにはゲーム開発技術の発展の可能性を探る研究開発などが進められています。

平成 16 年度にゲーム関連の教育では日本で初めて文部科学省が認定する「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」に選ばれました。また、平成 23 年度には専門学校と産業界との連携カリキュラム提案が文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業」に採択されました。東京ゲームショウ 2015 ではこの取り組み成果の一部を公開しました。



CEDEC2015 にて発表と展示を実施

平成 27 年 8 月 26 日(水)から 28 日(金)パシフィコ横浜にて CEDEC 2015 (コンピューター・エンターテインメント・デベロッパーズ・カンファレンス)が開催されました。CEDEC は日本最大のゲーム開発者向けカンファレンスで、プロのゲームクリエイターやゲーム業界関係者は勿論、多くの研究者も参加する毎夏恒例の催しです。

岸本好弘准教授は 3 日間を通して、学生らと共に「教育での利用を目的とするゲーム制作の試み〜数学ゲーム、インターネット安全学習ゲームなど」というテーマでインタラクティブセッション(展示)を行いました。併せて、3 日目は「教育での利用を目的とする数学ゲーム「Global Math」3 年間の試みとゲーム産業界への期待」というテーマで口頭発表を行いました。口頭発表は 2 年連続、展示は 3 年連続の参加となります。



教育工学の研究成果を SPRINGER 教から出版

飯沼瑞穂准教授が、ここ数年の教育工学の研究成果をまとめた英文の書籍「Learning and Teaching with Technology in the Knowledge Society: New Literacy, Collaboration and Digital Content」をシュプリンガー社から出版することになりました。この書物は、知識社会におけるテクノロジーを活用した学習と教授法を主題としています。リテラシーに関連する歴史的な変遷や知識社会において重要視されている学習理論について様々な実践結果や事例を基に論じています。特に講義ビデオ録画システム、反転授業、ICT を活用した協調学習や 3D を活用した教育など実際にメディア学部で行った教育事例や実験結果も挙げられています。

シュプリンガー社は、ドイツに本社を置く世界有数の国際学術出版社です。1842 年の設立以来、革新的な情報プロダクトやサービスを通して、ハイクオリティなコンテンツを配信しており、出版物の中には、200 人以上のノーベル賞受賞者の著作が含まれています。オープンアクセス出版社としては、世界最大規模を誇ります。



アメリカ国務省のトニー・ブリンケン副長官に映像作品を紹介

メディア学部 4 年生後藤沙央里さん、舟田優花さん(指導教員:近藤邦雄教授・三上浩司准教授)は、平成 27 年 10 月 5 日にアメリカ大使館の依頼で、東京港区赤坂のアメリカンセンター Japan において、アメリカ国務省のトニー・ブリンケン副長官へプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションの内容は、平成 27 年 3 月に南カリフォルニア大学(USC)で Weinberg Richard 先生はじめ学生のみなさんに作品紹介を行ったアニメ作品およびプロジェクトマップです。本学とメディア学部のことを紹介し、USC での交流の様子を写真を使い紹介し、南カリフォルニア大学での体験で学んだことを話しました。



アメリカ大使館の公開記録写真より: 2015.10.05 D/S Blinken Tokyo Visit Deputy Secretary of State Antony Blinken visits Tokyo By: U.S. Embassy Tokyo PRO

SIGGRAPH2015 の「コース」(技術セミナー)で講演

平成 27 年 8 月 9 日から 13 日にロサンゼルスで開催されたコンピュータグラフィックに関する世界最大のカンファレンス SIGGRAPH2015 (シーグラフ)にて、柿本正憲教授が講演を行いました。

講演は「コース」と呼ばれる技術セミナーの企画提案が採択され、日本のゲームプログラマーの間では有名な(株)トライエースの五反田義治氏、シリコンスタジオ(株)の川瀬正樹氏とともに三人の発表者の一人として発表しました。講演内容は、「Real-time rendering of optical effects in theory and practice」(光学効果の実時間レンダリングにおける理論と実践)というタイトルのテーマで、おもにゲームプログラマーを対象にして CG 描画(レンダリング)技術を紹介する内容です。3DCG のゲームに、本物のカメラで撮影したかのように見える特殊な効果や、明るい光によって生じるまぶしさ(グレア)の効果を与えるための理論やプログラミングの話がされました。



ライブ・エンタテインメント論 (2015 年度後期) 開講について

9 年目をむかえる本講座は、本学メディア学部と一般社団法人コンサートプロモーターズ協会とが産・学提携によって「産業界が求める実践的な教育の実現」を目指し開講しています。目標は、教育機関の理解と協力を得て、早い段階から産業界へ関心を深め、学習することで、デジタル技術の進化に伴い、環境の変化が急速に進む文化芸術振興に関わる産業界志向の人材の育成にあります。

したがって講座の内容は、「自分にとって役立つ知識や技術の習得」、「実社会を実現できる学習」、「学んだことが将来確実に役立つと感じられるような実践的知識の習得」をシラバスの軸にしました。

もちろん大学教育の主眼である「体系的学問の習得」になることも十分配慮してあります。「実践的な教育」キーワードに、ライブ・エンタテインメント産業界の要職に就かれておられる松任谷正隆氏をはじめとした多数の講師をお迎えし、リレー方式で行われました。

日付	講義回	講師名
9/29	第 1 回	佐々木和郎・吉岡英樹(メディア学部)
10/6	第 2 回	吉田雄生(株式会社フタナベエンターテインメント 第二マネージメント本部 関西事業本部 担当取締役)
10/20	第 3 回	夏目公一朗(株式会社アニプレックス 取締役会長)

日付	講義回	講師名
10/27	第 4 回	中西健夫(一般社団法人コンサートプロモーターズ協会会長/ディスクガレージ代表取締役社長)
11/3	第 5 回	吉田浩二(映画プロデューサー)
11/10	第 6 回	堀義典(株式会社ホリプロ代表取締役社長/一般社団法人日本音楽事業者協会会長)
11/17	第 7 回	林真司(エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社代表取締役 CMO)
11/24	第 8 回	野村達矢(株式会社ヒップランドミュージックコーポレーション 常務取締役執行役員兼制作本部長/有限会社ソングフェロー 代表取締役社長/一般社団法人日本音楽制作者連盟理事)
12/1	第 9 回	目黒敦(ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 エグゼクティブディレクター ミュージック・グループ日本&アジア・パフィック担当 キャラクター・ボイス・グループ兼キャストディレクター)
12/8	第 10 回	松任谷正隆(音楽プロデューサー)
12/16	第 11 回	KUREI 勇輝(ミュージシャン/元キマグレン)
12/22	第 12 回	伊藤圭(経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐)
1/5	第 13 回	村井邦彦(音楽プロデューサー)
1/12	第 14 回	美藤宏一郎(株式会社エムアップ 代表取締役)
1/20	第 15 回	松尾健司(株式会社 J-WAVE 編成局局長兼編成部長)

スマートイルミネーション横浜に作品を出展

平成 27 年 10 月 30 日から 11 月 3 日の期間に開催された「もうひとつの横浜夜景」を提案する光の祭典「スマートイルミネーション横浜 2015」にメディア



学部 AEDLab (羽田研究室) の 3 年生らが参加しました。このイベントは次世代の夜景を目指すイベントで横浜の湾岸地区である大さん橋から象の鼻パークの付近で行われました。今回のイベントで展示するのは、AED.Lab で昨年より研究を進めている、LED とスポーツカイトを組み合わせた新しいデバイスによるアートパフォーマンスで、LED を搭載した風を使い横浜の夜景とともに夜空に光の軌跡を描きました。

コオプ教育が大学教育再生プログラムに採択される

東京工科大学工学部の新しいカリキュラム、東京工科大学型コオプ教育が、文部科学省の平成27年度大学教育再生戦略推進費「大学教育再生加速プログラム（AP）」に採択されました。

このAPは教育再生実行会議や日本再興戦略で提言された国として進める改革の方向性のうち、学生が国内外で多様な長期体験活動を経験できる体制整備を推進する取組で、大学教育の質的転換の加速を促し、大学の人材養成機能の抜本的強化を図るためのものとされています。（申請件数38件、採択件数12件）

申請した東京工科大学型コオプ教育は、工学部機械工学科・電気電子工学科・応用化学科で実施する、2年次または3年次における約2か月間のコオプ実習（有給の学外就業体験）と事前・事後の教育を含めた一貫した必修の教育プログラムです。このコオプ教育を通して、学生の働くことの価値観を涵養し、主体的な行動力を身につけ、学修意欲の向上を図ることを目的としています。

WACE 第19回世界大会でコオプ教育について講演

「WACE世界大会」は、WACE(世界産学連携教育協会)が主催する最大規模の国際会議で、世界各国から産官学のリーダーや産学連携教育の専門家が集い、研究・事例発表や情報・ノウハウ交換、人脉形成を目的として、2年に1度開催されています。

今年度は京都産業大学にて8月19日から21日に開催されました。3日目の分科会Eの「理工系大学のコオプ教育セッション」では、100年の歴史のあるドレクセル大学のコオプ教育、開始して5年目のマサチューセッツ大学ローウェル校のコオプ教育、本年度開始の本学のコオプ教育と歴史の異なる3大学の事例の講演があり、国内外の参加者と実施方法や教育効果について活発な討論が行われました。



左より、ドレクセル大学キャリア教育担当副学長の Peter Franks 氏、マサチューセッツ大学ローウェル校キャリア開発担当副学部長の Gregory Denon 氏、東京工科大学工学部長の大山恭弘教授

第16回ビジネスフェア from 第TAMA」出展報告

平成27年11月6日に東京ドームシティプリズムホールで開催された「ビジネスフェア from TAMA」は、地域を超えた中小企業のビジネスチャンス拡大を目的とする、多業種・多企業による企業展示・マッチング会です。地域企業の持つ優れた技術・製品サービスなどをお互いに広くPRし、広域にわたる地域企業同士のネットワークや、公的機関・中小企業支援団体・大学など外部ネットワークの活用により、「出会いの場」と「ビジネスチャンス創出の場」を提供するものです。

本学からは工学部応用化学科の片桐利真教授、原賢二准教授が産官学・支援機関連携コーナーにおいてブース展示説明を行いました。



第1回コオプ実習事例発表・情報交換会を開催

平成28年度からの本格的なコオプ実習に向け、春期と夏期休暇にコオプ実習の試行を行っています。11月18日(水)、京王プラザホテル八王子において、コオプ実習に協力して頂いている企業および今後のコオプ実習生の受入を検討している企業を多数招いて、試行の事例発表会と、参加企業の皆さまと工学部教員との情報交換会を開催しました。当日は47企業から約60名と、工学部とコオプセンターの教職員全員が参加しました。

事例発表会では、平成27年度夏期に試行した

中から3件の事例報告を行いました。8月上旬から9月中旬にかけてコンピュータサイエンス学部とメディア学部の20名が12社に分かれて就業実習を行い、実習結果に対する参加学生と企業担当者の意見が発表されました。情報交換会では、教員が企業側の意見を聞くとともに、コオプ実習への参加を呼びかけました。特に、企業側の希望を各教員が認識するとともに、教員の協力できる技術分野等の意見を交換することで非常に盛り上がった交流会となりました。

企業側からは「学生も呼んで欲しい」との意見があり、次回以降は工学部の学生も参加する交流会を検討しています。



世界的に活躍されているデザイナーである客員教授による特別授業を実施



写真左より、池田政治デザイン学部長、永島譲二氏、デビッド・ロブ氏



演習授業にて学生に指導する、永島譲二氏



ペンタブレットを用いて、デモンストレーションを行う、デビッド・ロブ氏

平成27年11月10日から11日の2日間、本学部客員教授であるBMWのクリエイティブディレクターの永島譲二氏と元BMWモトロードデザイナーのデビッド・ロブ氏をデザイン学部にお迎えして、池田政治デザイン学部長とお二人とのトークセッションと特別演習授業を実施しました。

トークセッションは、蒲田キャンパス片柳記念ホールにて、「デザインと創造」一進化するかたち」というテーマで開催しました。お二人とも「描くことは考えることである」、「180度見方を変えて発想すること」、「100%の要望を100で返すのではなく120%の力で返すことが大切である」と話されて、聞いている学生たちも刺激を受け、デザインへの意識がさらに高まりました。

また、2日間にわたる3年生の演習授業では、課題として「新しいコンセプトの乗り物」のデザインに学生たち一人一人が取り組みました。

発表の後の講評では、「みんなが自分で発想した自分だけのいろんなアイデアが生まれ、いろんな発想をすることの訓練として役だった。」永島先生。「プロダクトを考える上で大切なことは、一つの面から考えるのではなく多角的な視点を持つ事。学生たちはデザインをいろんな側面から考えていくことができました。」デビッド・ロブ先生。

お二人からはデザインに必要な有意義なコメントをいただくことができ、学生にとっては非常に貴重で有意義な時間を過ごすことができました。

デザイン学部3年生らが大田区立郷土博物館展示に協力

平成27年10月25日から12月13日まで大田区立郷土博物館で行われた特別展「まちがやって来た - 大正・昭和 大田区のみちづくり」にデザイン学部の3年生9名が酒百宏一准教授、御幸朋寿助教の指導のもと展示協力として、大田区のみちの形成に重要な施設や建築の模型づくりに参加しました。

この展覧会では、100年前まで農漁村の風景が残っていた大田区が、区画整理によって近代的な市街地に劇的に変化していった背景や実態を、さまざまな資料から紐解いていくものです。

学生たちは、夏休みの期間を利用しておよそ2ヶ月間で4つの模型を制作しました。かつて用水を排水し、多摩川の改修を物語る六郷水門と日本で初めてできた幹線道路の立体交差、松原橋。そして現在は見ることのできない調布尋常小学校と同潤会分譲住宅です。大学のある大田区がどんな歴史を辿って今あるのか、それを当時の図面と資料を頼りにかたちにしていく作業は、もともと知識や経験が少ない学生たちにとっては、技術的な面で苦労の多いことでした。

しかし情報を共有し、仲間たちと完成させたことは、授業では得られない貴重な体験となりました。また、かつての大田区の暮らしやデザインを知ることにもなり、地域連携として学ぶことの多い機会となりました。



大田区立郷土博物館 特別展「まちがやって来た - 大正・昭和 大田区のみちづくり」にデザイン学部3年生9名が展示協力として参加し、重要な施設や建築の模型づくりに参加しました。

NHKと海外ミュージシャンの映像作品を手掛ける

平成27年1月、NHKの番組「名曲アルバム+(プラス)」のために映像作品を大西景太講師が提供しました。L.V. ベートーベンの交響曲第五番、通称「運命交響曲」をテーマとして制作しました。

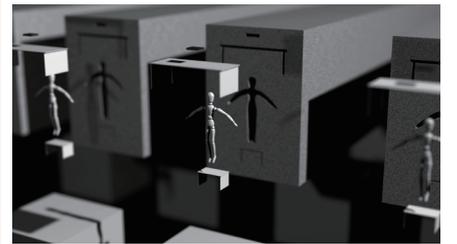
この曲は冒頭のフレーズ「ダ・ダ・ダ・ダーン」が有名ですが、このフレーズは冒頭だけでなく音程や強弱を変えながら曲の随所にあらわれるパーツであり、そのパーツが集積して成り立っている曲の構造をモーショングラフィックスにより視覚的に表現しています。

また平成27年5月、カナダの音楽レーベル King Deluxe のコンピレーションアルバム「Year Four」に収録されている曲、Julien Mier and Magical Mistakes による「Divide, Multiply」のためのミュージックビデオを制作しました。タイトルの増殖、分割をモチーフに曲のループ表現を視覚化しています。アメリカの Denver Film Festival の Music Video Mixtape 部門で招待上映、同国 San Diego Asian Film Festival、韓国・光州デザインビエンナーレでの展示上映も行われました。



Ludwig van Beethoven (1770-1827)

名曲アルバム+(プラス)



「Divide, Multiply」(ミュージックビデオ)

デザイン学部1年生がデザインフラッグフェスティバルを開催



すっかり「かまた祭」の恒例行事として浸透してきたデザインフラッグフェスティバル。今年で6回目を迎えることができました。

毎年、新一年生が自分自身の顔をモチーフに、ただ似せるだけではなく、個性やキャラクター性を加えて絵を仕上げるこのイベントは、ご来場の皆様に向けたデザイン学部の新しい顔ぶれのご挨拶

とさせてもらうとともに、先輩や他学部生たちとの交流の場としても楽しんでいただいています。

今年は、例年通りの個性的な表現に加えて、各々の「好きな言葉」あるいは「座右の銘」といった自身を示す言葉を添えることで、よりいっそう見応えのあるものに仕上がりました。

色とりどりの個性が一つになり、また新しいデザイン学部の大きな笑顔が誕生したような素晴らしいイベントとなりました。



フェスティバル『シブヤのタマゴ』にてワークショップ作品を出品

平成27年10月25日から11月3日の間、旧渋谷区庁舎で開催されたフェスティバル『シブヤのタマゴ』にて、宮元三恵准教授がワークショップ作品『ネスト』を出品しました。

この『シブヤのタマゴ』は、築50年を機に建て替えが予定されている旧区庁舎全体を利用した参加型フェスティバルで、会期中には、国内外のクリエイターによるアートやデザイン、ワークショップや講演会など様々なイベントが催されました。

今回の『ネスト』は、これまで一般の人たちが入ることのなかった議場が会場となりました。会期中2回にわたるワークショップでは、参加した40人ほどの子どもたちとご家族と一緒に、議場全体にたくさんの毛糸を張り巡らせていき、区議会が行われていた議場という重く硬い空間を白く柔らかな空間へと変化させていきました。

ワークショップ後は、議長席や傍聴席など様々な場所から来場者の方々に自由に作品を鑑賞していただいたほか、渋谷区長が参加したシンポジウ

ムの空間としても利用されるなど、会期中多くの来場者で賑わい、作品による議場空間の変化を楽しんでいただくことができました。



キッズデザイン賞を2つの分野で受賞

若林尚樹教授の研究である体験学習プログラム「ペンギンになる方法」と「気持ち温度計」の2研究が、第9回キッズデザイン賞を2分野で受賞しました。キッズデザイン賞とは、「子どもが感性や創造性豊かに育つ」ための優れた取り組みを選び、広く社会へ伝えることを目的として、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が実施している顕彰制度です。

今回、子どもの未来デザイン 学び・理解力部門で、コミュニケーションデザイン分野として体験学習プログラム「ペンギンになる方法」が、リサーチ分野として「気持ち温度計」が、それぞれキッズデザイン賞を受賞しました。

日本デザイン学会で「グッドプレゼンテーション賞」を受賞

平成27年6月12日から15日に開催された日本デザイン学会第62回春季研究発表大会で、若林教授が優秀な研究発表として「グッドプレゼンテーション賞」を受賞しました。「学びのデザイン」をテーマとしたすみだ水族館との共同研究で、これまで実施してきた体験学習プログラムのデザイン手法と、参加することもたちを対としたプログラムの評価手法の有用性とユニークな視点が評価されました。

医療保健学部

東京労働局長安全衛生推進賞を受賞

平成 27 年 7 月 2 日に開催された第 12 回東京産業安全衛生大会において、五十嵐千代看護学科学教授が、東京労働局長安全衛生推進賞を受賞されました。今回は東京都内で 14 名が受賞しました。

この賞は、長年にわたり労働安全衛生水準の活動に積極的に取り組み、安全衛生水準の向上に寄与し、功績が認められた人に贈られる賞です。

五十嵐教授は、企業在籍中に産業保健師としての産業保健活動、本学教員として大田区内での安全衛生に関する講話、大田区労働者の自殺対策事業の参画。また、本学医療保健学部産業保健実践研究センターとして、大田区保健所と共同の中小企業の健康管理を対象とした研究、大田地域産業保健推進センターと連携した中小企業の労働者の保健相談などに取り組みました。

それらの取り組みが受賞理由となり、今回の賞の授与となりました。



JACR International Session Award を受賞



平成 27 年 7 月 18 日から 19 日に福岡国際会議場で開催された第 21 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会にて、高橋哲也理学療法学科長・教授が発表した演題が JACR International Session Award を受賞しました。

今回の発表は高橋学科長が主管する多施設研究ネットワーク Cardiovascularsurgery Physiotherapy Network が行った、冠動脈バイパス術後のリハビリテーションの進行の関わる因子を 1,241 例の患者データで分析したものです。

1) 冠動脈バイパス術後は平均約 4.5 日で歩行が立することができること、2) 約 15% の患者さんが 6 日以内には歩行や自立することができないためにより積極的なリハビリテーションを実施する対象が明確になったこと、などが報告されました。

- セッション名
国際セッション
- 受賞演題

『Factors determining early postoperative cardiac rehabilitation in patients undergoing CABG』



第62回日本臨床検査医学会学術集会「国際学会奨励賞」を受賞

平成 27 年 11 月 19 日から 22 日に長良川国際会議場・岐阜都ホテルで開催された第 62 回日本臨床検査医学会学術集会において、奥橋佑基臨床検査学科助教が「国際学会奨励賞」を受賞しました。

今回の発表では、がん細胞の増殖に関与しているシグナルの分子メカニズムを明らかにすることで、白血病の分子病態の一端を解明しました。この研究により、症例毎の白血病幹細胞の特性を検出する分子生物学的検査法の開発や分子標的薬の選択に役立つことが期待されます。



世界水泳選手権のシンクロ日本代表のトレーナーとして帯同



昨年、韓国（仁川）で行われた第 17 回アジア大会に引き続き、平成 27 年 7 月 25 日から 8 月 1 日にロシア（カザン）で行われた第 16 回世界水泳選手権のシンクロ日本代表のトレーナーとして地神裕史理学療法学科講師が帯同しました。

この大会は 2 年に一度行われている大会で、オリンピックに次ぐ規模・レベルの大会です。来年のリオデジャネイロオリンピックに向けて、メダルが取れるかどうかの試金石となる大会です。

第10回北京国際リハビリテーション論壇で感謝状を授与



左より 2 番目が、奈良学科長・教授

平成 27 年 9 月に開催された第 10 回北京国際リハビリテーション論壇において、奈良進弘作業療法学科長・教授が感謝状を授与されました。

国際協力事業団（JICA）の専門家として、中国のリハビリテーション人材養成プロジェクトに長年従事し、2004 年の第 1 回のフォーラムの開催から尽力してきたことに対して同組織委員会から送られたものです。

当初は中国、日本、カナダなどからの数百名の参加者で始まった同フォーラムですが、現在は、世界数十ヶ国、2000 名を超える参加者を集めるまでに成長しています。

バイオ・情報メディア研究科

高機能色材の研究で「色材研究発表会優秀ポスター賞」を受賞

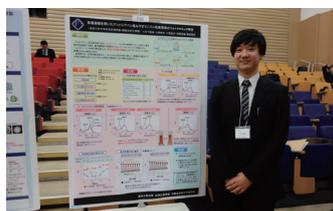
平成 27 年 10 月 20 日から 21 日に開催された「2015 年色材研究発表会」（色材協会主催）にて、大学院バイオニクス専攻修士 2 年生八木下優貴さん（指導教員：柴田雅史応用生物学部教授）らの研究が優秀ポスター賞を受賞しました。

この研究は、植物から抽出される色素と化粧品・食品で使用できる成分の組み合わせで、光の照射によって色が変化する「フォトクロミック材料」が得られることを報告したものです。従来からある化学合成品の材料とは異なって、化粧品・食品・

玩具など高い身体安全性が求められる産業分野での活用が期待されています。

■発表題目

各種溶媒を用いたアントシアニン系テオリニン色素のフォトクロミック特性
（八木下優貴、三原麻衣、小笹葉月、河野芳海、柴田雅史）



感性工学会大会で「優秀発表賞」を受賞

大学院コンピュータサイエンス専攻生戸田裕貴さん（2014 年度修了、指導教員：岩下志乃コンピュータサイエンス学部准教授）が、一昨年の感性工学会大会（2014/9/4～6）で発表した研究が「優秀発表賞」に選ばれ、今年の大会で表彰されました。

- 発表題目：風景写真の色彩情報を用いた Web デザイン手法の提案



経営情報学会で「学生優秀発表賞」を受賞

平成 27 年 11 月 28 日から 29 日に開催された経営情報学会 2015 年度秋季全国研究発表大会で、大学院アントレプレナー専攻修士 2 年生の富永侑さん（指導教員：山口淳コンピュータサイエンス学部講師）が「学生優秀発表賞」に選ばれ、表彰されました。

■著者：富永侑、山口淳

■発表題目

林業のアプリケーション開発における効果



情報処理学会 DICOMO2015 で活動功労賞・優秀論文賞を受賞

平成 27 年 7 月 8 日から 10 日に開催された情報処理学会「マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム (DICOMO2015)」において、コンピュータサイエンス前学部長である星徹名誉教授が活動功労賞を、大学院コンピュータサイエンス専攻博士前期課程 2 年生の小島夏海さん（指導教員：井上亮文コンピュータサイエンス学部講師）が優秀論文賞をそれぞれ受賞しました。

DICOMO シンポジウムは平成 9 年度の初開催以来、インターネットを中心とした通信技術から、マルチメディア通信、分散システム、グループウェア、モバイルコンピューティング、ITS、ユビキタス、セキュリティやデジタルコンテンツクリエイションに関する分野の研究について、学術的な研究論文のみならず、事例報告、問題提起などの論文も対象として活

発な議論を行っており、情報処理学会のさまざまな研究会が共同で行う大規模なシンポジウムです。

■著者：小島夏海、井上亮文、星徹

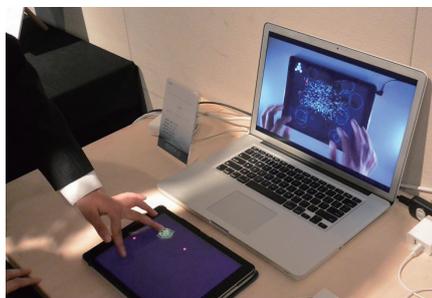
■発表題目

「DIVE」視覚的連続性を持った 3 次元入力可能な液体ディスプレイ



星徹前学部長・教授

東京ゲームショウのセンス・オブ・ワンダーナイトにファイナリストとしてノミネート



平成 27 年 8 月 25 日に ADADA Japan 学術大会で展示した、メディアサイエンス専攻大学院生と卒業生らのグループ (Yack Lab) が制作したゲーム『Gen』が、東京ゲームショウのセンス・オブ・ワンダーナイトにファイナリストとしてノミネートされました。

21 の国と地域からエントリーされた 100 作品の中からプレゼンテーションに選ばれた 10 作品のなかのひとつで、日本からはわずか 2 つです。

本グループは、メディア学部の授業の一つである、「プロジェクト演習 Creative Application」をきっかけに集まったグループで、今まで、iOS 向

けパズルゲーム『ハノイの本』の配信、学会発表などを行ってきました。

センス・オブ・ワンダーナイトは、“見た瞬間、コンセプトを聞いた瞬間に、誰もがはっと、自分の世界が何か変わるような感覚” = “センス・オブ・ワンダー” を引き起こすようなゲームのアイデアを発掘し、ゲーム開発者に東京ゲームショウ会場でプレゼンテーションと展示の機会を提供する企画として、今年で 8 年目の開催を迎えました。

発表した作品『Gen』は、大量のパーティクルを操る気持ちよさと、ジェネラティブ・アートをテーマにした作品で、iPad 向けのゲームになります。

■作品名：「Gen」

■開発チーム：

日置優介さん

(メディアサイエンス専攻修士課程 2 年生)

安藤健翔、戀津魁、松本竹生、神山大輝

(Yack Lab.)

学会「Society of Free Radical Research Australasia & Japan 7th Joint Meeting」で「Young Investigator Award」を受賞

平成 27 年 12 月 7 日から 10 日にニュージーランドのクライストチャーチのオタゴ大学で開催された学会「Society of Free Radical Research Australasia & Japan 7th Joint Meeting」で、山本研究室の大学院バイオニクス専攻博士後期課程 1 年生の飯田沙也加さんと藤沢研究室の大学院バイオニクス専攻修士課程 2 年生の渡辺真実さんが、若手奨励賞にあたる「Young Investigator Award」を受賞しました。





第十一回紅華祭

平成二十七年十月十一日(日)～十二日(月祝)

平成27年10月11日(日)から12日(月・祝)の2日間に亘って本学八王子キャンパスにて学園祭「紅華祭」が盛大に開催されました。

元々、平成16年度まで東京工科大学では「大学祭」、本学と姉妹校である日本工学院八王子専門学校では「紅丘祭」として別々に行われてきたものを、10年前から「紅華祭(こうかさい)」として合同で開催しています。

「紅華祭」という名称には、「紅色に染まった八王子キャンパスで、お祭りという華を咲かせよう」という思いが込められており、大学と専門学校それぞれの優れている点を活かし、学生の自主性を尊重した学園祭を目指して、毎年10月に行われています。

昨年は台風の直撃により、2日目が中止になるというハプニングもありましたが、今年は昨年と違い、天候にも恵まれ大盛況を修めることができました。

開催初日は、本学に程近く、交流の深い都立片倉高等学校の吹奏楽部によるオープニングセレモニーから始まり、メインステージイベント、100種類を超える学生による催し、模擬店、研究室発表、家族でも楽しめるミニゲーム、スタンプラリーなどのコンテンツが行われ、また、実行委員会主催の紅華祭ライブ2015にはアニメ主題歌などを歌う男女2人組ユニット「angela」がステージを熱く盛り上げ、東京工科大学同窓会主催のホームカミングデーには多数の卒業生と教員が参加し、数々の催し物で多くのお客様に楽しんで頂きました。

2日目は、実行委員会主催のお笑いライブ2015「快笑! Smile festival!!!」には、マシンガンズ、梅小鉢、アルコ&ピース、うしろシティらが会場を笑いに包み込み、エンディング2015イベントで2日間の紅華祭を締めくくりました。

撤収日も天気にも恵まれ、実行委員会としては3日間大変でしたが、今振り返ってみると知らないうちに、学生スタッフの成長を見ることができ、教職員共々、とても良い経験をさせていただきました。

平成28年度は10月22日(土)・23日(日)に開催します。詳しくは本学ホームページ等でお知らせをいたします。ぜひ、学生の生き生きとした様子を見に、八王子キャンパスまでお越しください。

第五十回 かまた祭

平成二十七年十月三十一日(土)～十一月一日(日)



オープニングセレモニーで挨拶をする片柳浦学園長・理事長

平成27年10月31日から11月1日の2日間、本学蒲田キャンパスにおいて、本学と日本工学院専門学校との合同学園祭「第50回かまた祭」が開催されました。

今年は、日本工学院専門学校の学園祭として「かまた祭」がスタートしてから通算で50回という区切りの年であり、実行委員会の学生を中心に昨年以上の熱意をもってイベントに取り組みました。

一昨年までのメイン会場であるセントラルプラザ(庭園)は残念ながら工事中であるため、今年の「かまた祭」の顔となる3号館正面入口において、実行委員会に所属する大学生、専門学校生が協力して設計、デザインした巨大な看板を設置し、蒲田の街を歩く人々に学園祭をアピールしました。

建物に入っすぐのエントランスステージにおいては、大学生のジャグリング、アカペラなどのパフォーマンスに専門学校生が音響などのサポートをしており、年々学生同士の協力する姿が目に見えてようになってきました。

大学初の試みとして、「ザ・ギース」「がるまん」の2組をゲストとして招き、お笑いライブを開催。ノウハウのないが手探りで準備して無事実施までこぎつけ、ご来場者の皆様に楽しいひとときをご提供できたのではないかと思います。また、最近はお子様連れのご来場者が増えまいりましたので、スノードームや動物のサンバイザーを作製する幼児、小学生向けワークショップなどをご用意するなど、学生の得意分野やアイデアを存分に生かして力を発揮しました。

新イベントだけでなく、毎年の恒例行事である医療保健学部企画「健康応援フェスティバル」、デザイン学部企画「デザインフラッグフェスティバル」、文化系サークルによる様々な展示や演奏会なども披露しており、今年も好評をいただきました。

今年度のかまた祭を実施する頃は、アリーナやセントラルプラザ(庭園)などの蒲田キャンパス第二期工事が完成する予定であり、これらの新施設を使用して、「かまた祭」の新たな半世紀がスタートとなります。学生達は早くも今年の反省点をもとに次年度の検討を始めており、今年の第50回を超えるスケールを目指しておりますので、是非ご期待ください。



REPORT 平成 27 年度ホームカミングデーが開催されました



昨年 10 月 11 日（日）、毎年恒例になりました、同窓会ホームカミングデーを紅華祭初日に開催しました。昨年と違い、天候にも恵まれ、多くの卒業生が来場。今年で 8 回目になるホームカミングデーも、卒業生にもイベントとして定着し、会場では、毎年この時期に同窓生や恩師と顔を合わせることが出来るホームカミングデーを楽しみにしていると言う声も多数聞かれました。

ホームカミングデーは、立食のパーティー形式で開催、学長の挨拶、同窓会会長の挨拶の他、大抽選会も開催しました。

会場に用意された卒業アルバムを見て、昔話を花を咲かせたり、当時の顔

と今の顔を見比べて驚いたり、開催時間も、短く感じられるほどでした。

最近では、子供連れの参加もみられるようになり、会場には、安心して子供を遊ばせることができるキッズ&ベビースペースも設置。子供だけでなく、母親となった卒業生達の交流スペースになっていました。

また、このホームカミングデーは、蒲田キャンパスでも、八王子キャンパスと同様に、かまた祭の初日に開催しました。まだまだ卒業生も少なく、2 回目であると言う事で参加者は少なかつたものの、今後、八王子キャンパスのホームカミングデーに負けることのないイベントに育て上げていきます。

REPORT サークル活動報告

○クロイツェル室内管弦楽団

東京工科大学クロイツェル室内管弦楽団は、平成 27 年 5 月 10 日（日）に、八王子学生委員会主催で開催された学生天国へ出演し、地域の方々へジブリメロデー等 4 曲の演奏発表を行いました。

また、10 月 24 日（土）には、油壺エデンの園という老人ホームでのボランティア演奏も行ってきました。当日は演奏だけでなく、ご老人の方々とお話をコミュニケーションを取るなど、楽しいひと時を過ごしていただけたと同時に、学生たちもとても良い経験をさせていただきました。



○写真部

東京工科大学写真部は平成 27 年 8 月 8 日から 9 日の 2 日間、国際展示場で開催された万国学生芸術展覧会 2015（通称：學展）に参加しました。

學展は「何かを学び挑戦する人」のための真夏のアートイベントで、多くの大学や学生が参加しました。写真部は 2014 年第 1 回開催の學展にも参加、そのときのテーマ「モノスク」（正方形のモノクロ写真）が大変好評だったため今年も同じテーマで写真展示を行い、多くの来場者の方々からコメントをいただきました。その時の様子を「SHUTTER magazine Vol.18」という編集スタッフの方から取材を受け、全国紙に掲載の運びとなり、部員の中に自信が芽生えたようです。

また、11 月 21 日から 22 日の 2 日間、国際展示場で開催されたデザインフェスタ vol.42（通称：デザフェス）に参加し、作品展示を行いました。デ

ザフェスは年 2 回開催される巨大なアートイベントで様々なアーティストが参加します。写真部は今回で 5 回目の参加、毎年テーマを変えて展示を行っており今年は「ヒト」というテーマで出展しました。他の出展者や来場者の方々と交流を持ち、直接コメントをいただけるので作品の質の向上にもつながっています。

写真部では、以上のような大きなアートイベントへの参加の他、月 1 回の撮影会や夏季及び冬季の合宿の開催、図書館棟や紅華祭での写真展示、学外のギャラリーを借りて展示といった様々な活動を行っています。

平成 28 年 3 月 9 日から 13 日の 5 日間、原宿のデザインフェスタギャラリーにて本年度最後の写真展示を行います。卒業生の展示「卒展」も同時に行いますのでよろしければ足をお運びください。



○赤平

平成27年7月11日と12月19日にアカペラっぽいサークル赤平（あかぴら）では、八王子にあるライブハウス papabeat にて一般の方に向けたアカペラライブを開催しました。このライブは赤平が毎年企画していますが、今年は他大学のアカペラサークルとの交流会を行ったこともあり、例年より多くの方に来場して頂くことができました。2日間とも12バンド以上が出演し、様々なジャンルの曲を演奏しました。アカペラっぽいサークルということで、歌だけにとどまらず衣装や振付にもこだわるバンドが多く、赤平らしいライブ演出となりました。

赤平は今年で15周年を迎え、部員数も設立時の4人から78人と大きなサークルへと成長しました。2回のライブだけでなく、年に4回学校でのサークルライブ、アカペラライブへの出演、学園祭での演奏など様々な場面で幅広く活動しています。また、3年連続で他大学の学園祭への出演オファーがあり演奏しました。学外で演奏する機会が増えたことで演奏のレベルやサークル全体の意識が上がり、レベルアップへ繋がりました。

今後もライブを開催する予定です。赤平の公式ホームページやTwitterにて情報を掲載しておりますので、是非赤平の演奏に足をお運び下さい。



REPORT 名誉教授懇談会を開催

平成27年10月11日（日）に京王プラザ八王子ホテルにて、東京工科大学名誉教授懇談会を開催しました。当日は天候にも恵まれ、また、紅華祭（学園祭）当日ということもあり、多くの名誉教授の先生方がホームカミングデーにて学生たちと再会した後に、懇談会へご参加いただきました。

片柳瀧理事長の挨拶で開会し、出席者それぞれの在職時の思い出や出来事、近況報告や健康の話などで会話が弾み、盛況の内に閉会しました。

来年度は蒲田キャンパスで開催を予定しています。



INFO 就職・採用スケジュールが2年連続変更へ

現4年生および大学院修士2年生の経団連加盟企業の採用活動が、3月：説明会・エントリー開始→8月：選考開始に変更となりましたが、2016年度も更に変更になることが先日経団連および文部科学省就職問題懇談会より発表されました。

新スケジュールから推察しますと、今年3月から選考開始までに各企業で行われた水面下での採用活動は、期間の短縮で減少するものと思われそうですが、経団連未加盟企業については今年度と同様に3月以降降参採用活動が行われるとみられています。

したがって、次年度就職活動を行う学生たちは、2月中には履歴書・エントリーシートの基本形を完成させておくことはもちろんのこと、面接や筆記試験対策、業界・職種研究などを一通り終わらせておくうえで、3月の説明会・エントリー開始を迎えなければ、その後の就職活動が非常に厳しいものとなるでしょう。



REPORT 卒業生による「いろは就職相談会」を開催

昨年に引き続き本学同窓会の協力のもと、平成27年11月21日（土）に本学卒業生24名にお越しいただき、片柳研究所棟10階において「いろは就職相談会」を開催しました。

この「いろは就職相談会」は、現在従事している仕事の業種・職種別に卒業生をブースに配し、これから就職活動をスタートさせる学部3年生および大学院修士1年生が、自分の希望するブースを順次訪問し、仕事の内容や社会人としての心得、大学時代の学修について、就職活動の進め方などを先輩から直接聴くことができるものです。これによって、今後の自分のキャリア形成に役立たせる企画として非常に有益なものとなりました。

参加した在校生24名からは、本相談会が非常に有益であったとの意見が大半で、後輩に対しても本相談会を是非開催して欲しいとの要望が多数寄せられました。



REPORT OB・OGからの就職活動アドバイス

デザイン学部では2回の卒業生を輩出したのを機に、今年度初めて、OB・OGにお願ひし、卒業生からのアドバイスを聴く機会を設け、3年次キャリアプログラム「卒業生講話」、1年次「フレッシューズゼミ」の授業の中で実施しました。

OB・OGは、ぐるなび（インターネットサービス）、富双合成（建築内装材製造・販売）、クルーズ（ソーシャルゲーム）で活躍しております。

OB・OGからは、就職活動や現在の仕事、学生時代に経験しておいた方が良いことなどアドバイスをしていただきました。質疑応答も活発に行われ講座終了後も学生達が残り個別に質問していました。今後の大学生活や就職活動に良い効果が出ることを期待しております。



人事（採用、任命、退職）

1. 採用

平成27年9月1日付

職位	所属	氏名
教授	コンピュータサイエンス学部	澤谷 由里子
助教	医療保健学部看護学科	川村 晴美

平成27年10月1日付

助教	医療保健学部看護学科	山口 真理
----	------------	-------

平成27年10月14日付

助教	医療保健学部臨床工学科	伊藤 奈々
----	-------------	-------

平成28年1月1日付

助教	医療保健学部看護学科	土屋 文枝
講師	メディア学部	大原 延恵

2. 任命

平成27年9月1日付

命	所属	氏名
大学院バイオニクス専攻 博士後期課程及び修士課程担当	応用生物学部 教授	横山 憲二
大学院コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程及び修士課程担当	コンピュータサイエンス学部 教授	渡辺 正浩
大学院メディアサイエンス専攻 博士後期課程担当	メディア学部 准教授	松永 信介
	工学部 准教授	天野 直紀
	メディア学部 講師	榎本 美香

大学院コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程担当	コンピュータサイエンス学部 助教	渡邊 紀文 柴田 千尋
大学院アントレプレナー専攻 修士課程担当	コンピュータサイエンス学部 教授	澤谷 由里子
大学院バイオニクス専攻 修士課程担当	応用生物学部 助教	筒井 裕文
大学院コンピュータサイエンス専攻 修士課程担当	コンピュータサイエンス学部 助教	喜多 義弘
	工学部 助教	上野 祐樹

大学事務局

平成27年9月1日付

命	氏名
事務局研究協力課係長	相澤 和広
八王子キャンパス業務課勤務	松本 憲太郎

3. 退職

平成27年8月31日付

所属	氏名
医療保健学部看護学科	阿部 玲子

平成27年12月31日付

事務局八王子キャンパス 学務課	田中 和美
-----------------	-------

外部研究費（受託研究、共同研究、奨学寄付金等）

1. 受託研究

研究者名	研究テーマ	期間	企業（団体）名
佐藤 淳 (応用生物学部教授)	ラクtofelinに関する研究	H27.4.1～H28.3.31	株式会社NRLファーマ
山本 順寛 (応用生物学部教授)	coenzyme Q10の測定（成育疾患克服等総合研究事業（再委託））	H27.4.1～H28.3.31	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
山下 俊 (工学部応用化学科教授)	水蒸気バリア性あるいは熱的寸法性に優れたポリイミド、粘土屈折率に合わせた透明ポリイミド、電着式塗工法に適したポリイミド、およびポリイミドから発生する水分による劣化防止の研究	H27.4.1～H28.3.31	住友精化株式会社
今村 亨 (応用生物学部教授)	生理活性物質特定と作用メカニズム解析による生産プロセスの最適化と発酵産物高機能化に寄与する技術開発（戦略的基盤技術高度化支援事業（再委託））	H27.4.10～H28.2.29	公益財団法人 千葉県産業振興センター
井上 亮文 (コンピュータサイエンス学部講師)	センサーネットワークに関する調査研究	H27.6.1～H28.5.31	日本プロセス株式会社
亀田 弘之 (コンピュータサイエンス学部教授)	鉄道車両との相互作用を考慮した軌道動的応答解析に関する研究	H27.6.12～H28.3.18	東海旅客鉄道株式会社
正木 仁 (応用生物学部教授)	肌の光老化抑制メカニズムの解析及びそれに対する素材研究	H27.7.1～H28.3.31	株式会社ちふれ化粧品
石畑 宏明 (コンピュータサイエンス学部教授)	ポスト・ムーア時代の科学技術計算向け HPC アーキテクチャの研究	H27.8.3～H28.3.31	富士通株式会社

他6件

2. 共同研究

研究者名	研究テーマ	期間	企業（団体）名
高木 茂行 (工学部電気電子工学科教授)	赤外半導体レーザの性能向上と応用展開に関する研究	H27.6.5～H27.9.30	株式会社東芝
佐藤 拓己 (応用生物学部教授)	褐藻類シワハズの機能性成分（ソノロール）に関する研究	H27.9.7～H28.9.6	カネリョウ海藻株式会社
正木 仁 (応用生物学部教授)	機能性化粧品の開発及び評価技術の確立	H27.10.1～H28.9.30	株式会社新菱
三田地 成幸 (コンピュータサイエンス学部教授)	光通信関連の新規接着剤に関する研究	H27.10.1～H28.9.30	横浜ゴム株式会社
前田 憲寿 (応用生物学部教授)	フラレーンの美容効果に関する評価	H27.10.6～H28.9.30	ビタミンC60バイオリサーチ 株式会社

他2件

3. 奨学寄付金

研究者名	企業（団体）名
岩淵 徳郎（応用生物学部教授）	株式会社アリミノ
山下 俊（工学部応用化学科教授）	サンアプロ株式会社
前田 憲寿（応用生物学部教授）	株式会社ADEKA
大久保 友雅（工学部機械工学科講師）	公益財団法人天田財団

他2件

4. その他

研究者名	研究テーマ	期間	企業（団体）名
木村 康男 (工学部電気電子工学科教授)	超絶縁性脂質二分子膜に基づくイオン・電子ナノチャネルの創成；脂質二分子膜単電子デバイスの構築（戦略的創造研究推進事業（CREST））	H27.4.1～H28.3.31	国立研究開発法人 科学技術振興機構

* 正誤表 *

学報62号において掲載内容に誤りがございました。下記の通り訂正させていただきます。

P15. 外部研究費関連1. 平成27年度学術研究助成基金助成金 / 科学研究費補助金

研究種目	研究代表者名	研究課題名
誤: 基盤研究（C）（一般）	太田 浩子（医療保健学部看護学科講師）	キャリア中期ジェネラリスト看護師の、物語としてのキャリア創出に関する研究
正: 基盤研究（C）（一般）	太田 浩子（医療保健学部看護学科講師） 太田 祐子（医療保健学部看護学科講師）	シミュレーティッドリアリティ臨時実習体験による看護実践課程教育システム開発 キャリア中期ジェネラリスト看護師の、物語としてのキャリア創出に関する研究

— 平成27年度学位記授与式日程 —

日時：平成28年3月23日（水）

開場：9時30分

開式：10時30分

場所：東京工科大学 八王子キャンパス 体育館

交通：JR八王子みなみ野駅・JR八王子駅南口よりスクールバスをご利用ください。

*当日は、東京工科大学公式インターネット放送局「intebro」によるライブ配信を予定しています。
詳しくは、東京工科大学公式ホームページにてお知らせいたします。



— 平成28年度前期学内行事予定 —

八王子キャンパス

行事予定	日付
卒業論文審査日	2月上旬
成績表（後期）送付	3月中旬
学位記授与式	3月23日（水）
編入生（新入生）ガイダンス	3月25日（金）
応用生物学部、工学部在学生ガイダンス、健康診断	3月28日（月）
コンピュータサイエンス学部在学生ガイダンス、健康診断	3月29日（火）
メディア学部在学生ガイダンス、健康診断	3月30日（水）
就職関連行事（新3年生）、アドバイザー面談（新2、3年生）	3月31日（木）
春期休業	4月1日（金）
学生証交付・ノートパソコン受け渡し、セットアップガイダンス	4月2日（土）
入学式、新入生ガイダンス	4月4日（月）
新入生・編入生ガイダンス、プレースメントテスト、避難訓練、学部交流会（応用生物・コンピュータサイエンス）	4月5日（火）
新入生・編入生ガイダンス、健康診断	4月6日（水）
健康診断、留学生ガイダンス	4月7日（木）
授業開始	4月8日（金）
履修登録	4月15日（金）～21日（木）
履修登録確認・修正	4月22日（金）
★祝日授業開講	4月29日（金）
創立記念日（休業日）	5月1日（日）
臨時休業日	5月2日（月）、6日（金）
春期保護者懇談会	5月14日（土）～15日（日）
スポーツ大会	5月28日（土）
補講	6月18日（土）
前期末試験時間割発表	7月上旬
★補講	7月16日（土）
★祝日授業開講	7月18日（月）
★授業開講予備日（自然災害等で休講となった場合の振替日）	7月23日（土）
授業終了	7月28日（木）
前期末試験	7月29日（金）～8月8日（月） （土曜日含む、最終日は予備日）

蒲田キャンパス

行事予定	日付
後期再試験（医療保健学部）	2月8日（月）～12日（金）
デザイン学部卒業制作展	2月上旬（予定）
成績表（後期）送付	3月中旬
学位記授与式	3月23日（水）
2年生ガイダンス（医療保健学部）	3月25日（金）
2年生ガイダンス（デザイン学部）	3月28日（月）
3年生ガイダンス（デザイン学部・医療保健学部）	3月28日（月）
4年生ガイダンス（医療保健学部）	3月29日（火）
4年生ガイダンス（デザイン学部）、4年生健康診断、就職関連行事	3月30日（水）
3年生健康診断、就職関連行事	3月31日（木）
2年生健康診断、就職関連行事	4月1日（金）
学生証交付・入学式、新入生ガイダンス（八王子キャンパス）	4月4日（月）
新入生健康診断、就職関連行事、プレースメントテスト	4月5日（火）
新入生物学部ガイダンス、防災訓練	4月6日（水）
新入学生生活ガイダンス	4月7日（木）
授業開始	4月8日（金）
履修登録	4月15日（金）～22日（金）
★春期保護者懇談会	4月23日（土）
★祝日授業開講	4月29日（金）
創立記念日（休業日）	5月1日（日）
臨時休業日	5月2日（月）、6日（金）
★スポーツ大会（八王子キャンパス）	5月28日（土）
前期末試験時間割発表	7月8日（金）
★祝日授業開講	7月18日（月）
★補講	7月23日（土）
授業終了	7月28日（木）
補講	7月29日（金）
★補講（自然災害等で休講となった場合の振替日）	7月30日（土）
前期末試験	8月1日（月）～9日（火）

★土曜日・祝日開講または振替授業実施日



東京工科大学報 63

発行月 平成 28 年 2 月
発行 学校法人片柳学園 東京工科大学

■八王子キャンパス
〒 192-0982 東京都八王子市片倉町 1404-1
☎ 042-637-2111

■蒲田キャンパス
〒 144-8535 東京都大田区西蒲田 5-23-22
☎ 03-6424-2111
✉ jm-hcsyomu@stf.teu.ac.jp

編集 東京工科大学情報公開委員会
東京工科大学事務局業務課

制作 東京工科大学事務局業務課



—編集後記—

今号では、両キャンパスで行われた学園祭を楽しそうに満喫している学生たちの様子を報告することを楽しみに編集しました。

大学に入学して約半年、初めての学園祭を迎える1年生、学生生活に少し余裕が出てきた2年生、就職活動に向けて準備に忙しい3年生、卒業研究に没頭する4年生。そんな色々な状況の学生たちの、色とりどりの笑顔が学園祭に花を咲かせ、充実した大学生活を過ごせている様子が私達職員も嬉しくなる、そんな時間を過ごすことができました。

この号が発行される頃には、本学への入学を夢見て勉強に励む受験生のスタートが切られているころでしょう。冬の寒さは受験生にとっても、これから世の中へ社会人として旅立つ4年生にとっても、長いトンネルのように感じるはずです。

しかし、今年の春、成長した姿で社会に出て行く学生、また、桜舞うキャンパスに新しい笑顔で大学生活に一步を踏み出す学生たちが、新しい大学の歴史を作ってくれることを私達職員は楽しみにしていきたいと思えます。

また、新たにスタートした Campus Scene では、片柳鴻理事長自慢のキャンパスの新たな一面を、少しづつですが皆様にお届けしていきたいと思っています。